

科目目標: 在宅看護の概念を踏まえ、在宅看護の対象と看護師の役割を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 在宅看護が必要とされる背景と基本理念が理解できる。	6 (3回)	1) 社会の変化と在宅看護 (1) 在宅看護の役割 (2) 在宅看護が必要とされる背景 2) 在宅看護の倫理と基本理念 (1) 自己決定支援 (2) 権利擁護(アドボカシー・成年後見制度) 3) 在宅看護の変遷と今後の課題 (1) 日本における在宅看護の歩み (2) 在宅看護の展望と課題	
2 訪問看護の機能と役割が理解できる。	2 (1回)	1) 訪問看護の機能と役割 (1) 訪問看護のシステム (2) 生活の場における看護 (3) 自立を支援する看護 ①QOLの向上 ②社会参加 (4) 今後の状態の予測と予防 (5) 生活を支えるチームの一員としての役割 (6) 今後の課題	
3 在宅看護の対象と必要な援助が理解できる。	2 (1回)	1) 在宅看護の対象と必要な援助 (1) 健康段階からみた対象 (2) 発達段階からみた対象 (3) 家族と在宅看護 (4) レスパイトケア (5) 在宅看護が提供される場 ①居宅 ②入所施設 ③通所施設	
4 在宅看護を支える社会資源の活用必要性が理解できる。	2 (1回)	1) 在宅看護に必要な社会資源 (1) 在宅看護を支える保健・医療・福祉制度 ①介護保険法 ②障害者総合支援法 ③健康保険法 (2) 地域包括ケアシステム ①ケアマネジメント・ケースマネジメント ② チームケア ③行政との連携 ④住民との連携 2) 療養の場の移行に伴う看護 (1) 退院指導 (2) 退院支援・退院調整	
5 在宅看護と医療機関の連携が理解できる。	2 (1回)	1) 医療機関との連携 (1) 地域連携パス (2) 外来・地域連携部門との看看連携 (3) 多職種との連携・協働	
	試験1H		

科目名:在宅療養者の状態別看護

単位時間:1単位(30時間) 2学年

科目目標: 在宅で療養する対象の状態に応じた看護と社会資源活用の基本を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 在宅看護における安全と健康危機管理が理解できる。	4 (2回)	1)日常生活における安全の確保 (1)家屋環境整備 (2)熱中症予防 (3)火災予防 (4)独居高齢者の防災 (5)24時間の支援体制  2)災害時における在宅療養者の安全管理 (1)防災対策指導 (2)福祉・行政との連携	
2 疾病や障害をもって生活する在宅療養者への看護が理解できる。	20 (10回)	1)在宅療養継続のための健康管理 2)療養者の自立支援・QOLの維持・向上のための看護 (1)尊厳保持 (2)成長 (3)権利擁護 3)在宅療養継続のための家族支援 4)法制度と社会資源の活用 (1)地域包括ケア 5)特徴的な疾病を持つ療養者の看護 (1)在宅で療養する子どもへの看護 (2)認知症在宅療養者への看護 (3)精神疾患をもつ在宅療養者への看護 (4)難病とともに生活する在宅療養者への看護	
3 在宅における終末期の看護が理解できる。	4 (2回)	1)終末期にある療養者の看護 (1)疾病の特徴と療養の経過 (2)症状マネジメント (3)終末期緩和ケア (4)看取りの援助 (5)グリーフケア	
		試験2H	

科目名:在宅看護技術

単位時間:1単位(30時間) 2学年

科目目標: 訪問看護技術の基本技術と療養する対象のアセスメントをもとに在宅における生活支援技術が理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 在宅における基本技術が理解できる。	4 (2回)	1) 基本技術 (1) コミュニケーション技術 (2) 相談・指導技術 (3) 訪問時のマナー	<校内実習> (2H) 「訪問時の対応とマナー」
2 生活環境の調整が理解できる。	2 (1回)	1) 生活環境の調整 (1) 安全で快適な居住環境の条件 (2) 社会資源の活用と工夫	
3 在宅におけるフィジカルアセスメントが理解できる。	2 (1回)	1) 在宅におけるフィジカルアセスメント (1) 症状・徴候アセスメント (2) 身体機能別アセスメント	
4 在宅における日常生活支援技術(日常生活援助と医療処置)が理解できる。	20 (10回)	1) 在宅における日常生活支援技術 (1) 食事 ①食事援助の実際 ②経管栄養法の管理(胃瘻・腸瘻) ③中心静脈栄養法の管理 (2) 排泄 ①排便・ストマケア ②自己導尿・膀胱留置カテーテル (3) 清潔・衣生活 ①工夫、安全、気分転換 ②入浴(シャワー浴) (4) 活動・移動・休息 ①移動補助具(リフト・スライディングシート等) ②生活リズム (5) 呼吸・循環 ①在宅酸素療法 ②在宅人工呼吸療法 ③口腔・鼻腔吸引 ④気管切開部の管理 ⑤気管内吸引	<校内実習> (2H) 「物品を工夫した清潔援助、スライディングシート・リフト体験」  <校内実習> (4H) 「経管栄養法と胃瘻管理、口腔・鼻腔吸引、気管内吸引と気管切開部の管理」
	試験2H		

科目名:在宅看護過程

単位時間:1単位(15時間) 2学年

科目目標: 在宅看護の特徴を踏まえた看護過程の展開が理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
<p>1 在宅看護過程の展開におけるアセスメントの特徴が理解できる。</p> <p>2 目標の設定のもとに看護活動が立案できる。</p> <p>3 評価の視点と方法が理解できる。</p>	<p>14 (7回)</p> <p>試験1H</p>	<p>1) アセスメントの視点            (1) 療養者と家族の身体と精神面の健康・セルフケア能力            (2) 療養者と家族一人ひとりの価値観や人生観            (3) 療養者と家族が望む生活・在宅療養への思い            (4) 療養者と家族の習慣            (5) 意思決定            (6) 住環境と経済状態            (7) 活用している社会資源・支援体制、多職種との連携</p> <p>1) 目標設定            (1) 療養者と家族を対象とした目標            (2) 療養者と家族との支援目標と援助内容の共有化</p> <p>2) 看護活動            (1) 訪問間隔、訪問時間の調整            (2) 日常生活支援技術            (3) 療養者と家族への指導            (4) 社会資源の活用への援助            (5) 緊急時の対応</p> <p>1) 評価            (1) 継続看護の視点            (2) 計画の妥当性            (3) 計画の修正</p>	<p>&lt;演習&gt; (14H)</p>